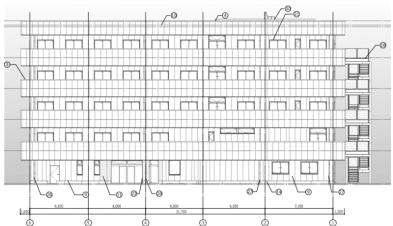
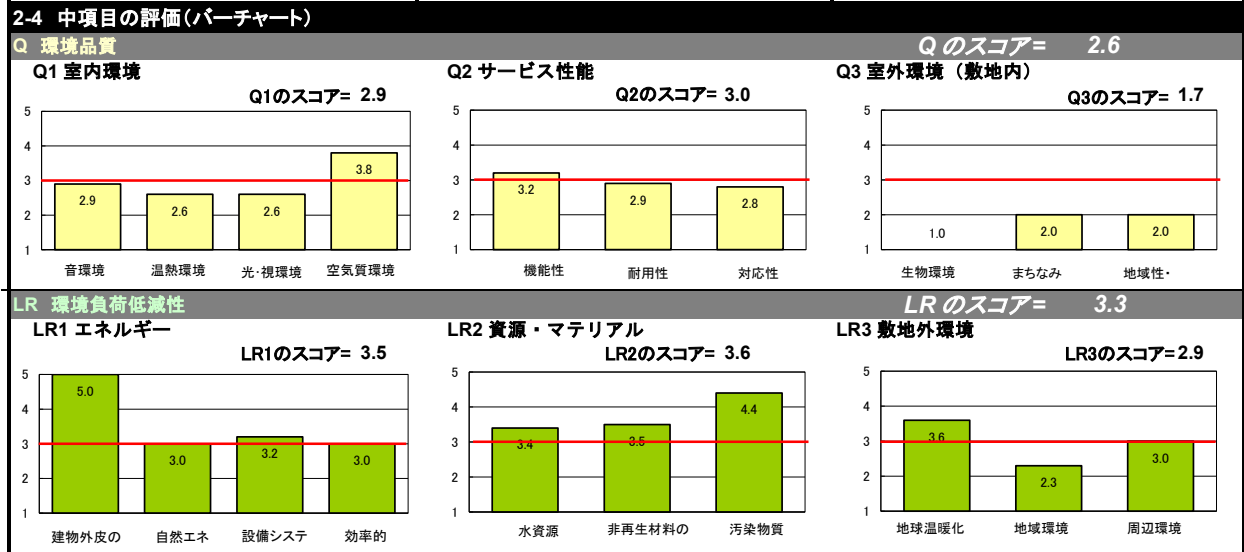
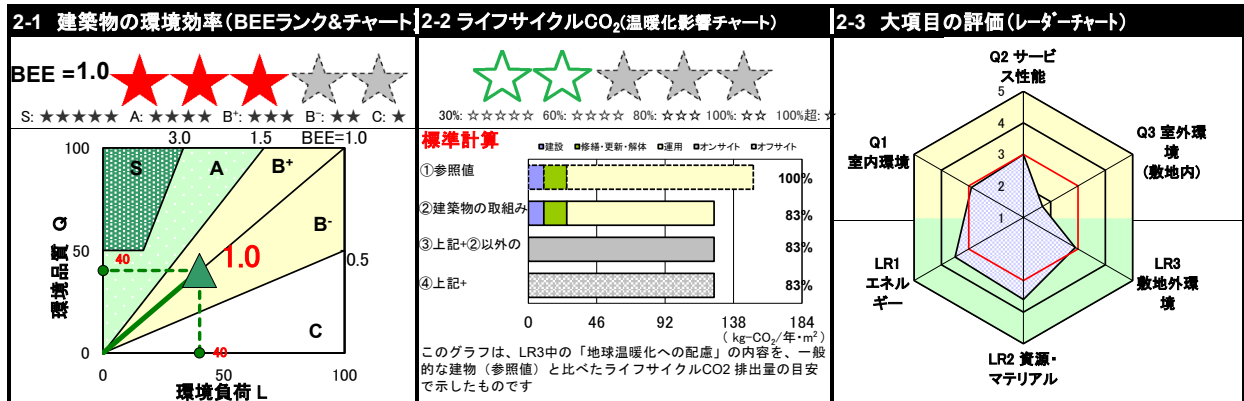


CASBEE神戸ver.3

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE 建築 (新編) 2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	医心館王子公園新築工事	階数	地上5F	
建設地	神戸市灘区水道筋6丁目3-20の一部他	構造	S造	
用途地域	市街化区域、第7種高度地区	平均居住人員	76 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2025年4月 予定	評価の実施日	2024年4月22日	
敷地面積	829 m ²	作成者	大和ハウス工業(株)上野航	
建築面積	468 m ²	確認日		
延床面積	2,164 m ²	確認者		



3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画  4.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振  3.0 Q-2/2.4 信頼性  2.6	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮  2.0
配慮の概要 建築物移動等円滑化誘導基準を望ましいレベルを満たしている	配慮の概要 0	配慮の概要 0
その他の配慮事項		
0		

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
医心館王子公園新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.6
Q1 室内環境			0.40	-	-	2.9
1 音環境		2.9	0.15	2.8	1.00	2.9
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音		3.8	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能 T2	5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		1.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		1.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.5	0.25	2.8	1.00	2.6
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率	共用部:2.78% 専有部:3.27%	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		1.0	0.25	1.0	0.25	
4 空気質環境		3.9	0.25	3.6	1.00	3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	内装材は全てF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	1.0	0.33	
2 自然換気性能	自然換気有効面積が居室床面積の1/10以上	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		3.1	0.40	3.8	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	個室10㎡以上	-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化誘導基準を望ましいレベルを満たしている	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	取り組みが標準以上である	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	取り組みが標準以上である	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		2.8	0.30	2.9	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり		2.4	0.30	2.8	0.50	
1	階高のゆとり	2.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	3.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	[BPI][BPI _m]=0.66	5.0	0.20	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] = 0.79	3.2	0.50	-	3.2
4	効率的運用		3.0	0.20	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ、省水型機器の使用	4.0	0.40	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ネオマフォーム、磁器質タイル、エスリュウム	5.0	0.22	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が用意に分別可能となっている	4.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		4.4	0.20	-	-	4.4
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		5.0	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつ、GWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が1以下)を用いた	5.0	1.00	-	
3	冷媒		-	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出量が一般的な建物と同等以上	3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	2.3
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	